

# 人生を拓く ひら

新

実り豊かな今日の東川を築いてきた先駆の人々。今月からそんな先達の皆さんにご登場いただく新連載をスタートします。初回は鳥取県から入植の4代目米づくり農家として「優良米生産名人」の称号を持つ御家瀬重信さんご夫婦です。

御家瀬重信さん(91)、キクエさん(89) 14区

今年結婚66年目。12人という大家族で暮らしていたため、8畳間が7室もあるという大きな家です。今は重信さんとキクエさんの二人暮らし。一男四女がひ孫を連れてよく遊びに来ているそうです。

キクエさんは、1948(昭和23)年、戦後の混乱期に七線の旧第五小学校(現北の住まい設計社)近くにあった渡辺家から嫁いできました。

嫁入りは、終戦後もののない時代にもかかわらず、馬そり3台の豪華なものでした。「わしも9人家族が多かったけれど、嫁いで来た時には、ご飯食べる時テーブルが3つにもなつたよ」。

にぎやかな大家族の中で5人を育て上げ、長年の農作業ですっかり腰も前かがみになりました。「もうすぐ地べたに張り付いてしまうよお」と茶目っ気たっぷりに話すその姿は、懸命に働いてきた勲章です。

そんなキクエさんをやさしく見守

※おこわり

「二家庭医学講座は「保健だより」のページに移動して、隔月掲載します。次回は7月号の予定です。



っているのは重信さん。1年前から食事づくりも担当するようになりました。80歳まで現役で米作りを続け、4年連続6回にわたって一等米出荷100%の優良生産農業者表彰を受けた腕前を料理でも発揮しています。「おいしいよお。食べてごらんよ」とキクエさんは太鼓判。

## 俳句

老木の花咲き誇る隠れ里  
湯に若布放てば遠き父の海  
古時計命ふきこむ春の空  
いくせとも見せてあげたい山桜  
わが庭の七分咲きなる記念の樹  
口癖は明るい貧乏豆の花  
海女の手に匂ひ滴る若布かな  
棹一つのどかに見ゆる若布刈舟  
こいのぼり腹空っぽで小気味好し  
汚染水紛れこんだり春の海  
谷地露の沢のせせらぎ聞きて咲く  
フロントに一ひらのせて花の雨  
この辺りものの芽探す庭の先  
おすそわけゴツイ山葵も嬉しけり  
夢なれど一度乗りたし花筏  
一日ごと葉色移ろう柿若葉  
果てもなく寄せては返す若布かな  
うまさもの若布味噌汁玉子飯



三島 智  
若田 郁  
本田 咲  
山内 みゆ  
長谷川 きみゑ  
小林 ろば  
高橋 公花  
杉山 ひろのり  
保科 なほ  
徳光 吐苦  
杉山 りつ  
山口 佐知子  
横田 則子  
若田 久  
高瀬 潤  
石澤 清宏  
澤田 久美子  
松山 蓉子